

新規採用者事前研修を行いました

令和6年3月26日(火)、長野市生涯学習センターを会場としてお借りし、この4月より園に勤務される先生方を対象とした研修を実施しました。学生生活が終了し4月に向けて何かと忙しい中、56名の先生方にご参加いただきました。参加された先生方には協会より記念品として「研修ハンドブック」を贈りました。研修では研修委員会の先生方がスタッフとなり4講座を行いました。当日の様子や参加された先生方の学びをまとめてみましたので、参考にしてください。



第1講座「保育者の職務と倫理、幼稚園・認定こども園の役割」

…長野県私立幼稚園・認定こども園協会理事長、大森けい子先生より、「保育者の職務と倫理、幼稚園・認定こども園の役割」という演題で、「望ましい教師像とは」「幼児期における主体的、対話的で深い学びの大切さ」「『子育て』支援の前に『子育て』支援を!」「乳幼児期の重要性」についてお話しいただきました。

講座1から学んだことは、子どもの主体性を考えることの大切さです。中でも安全管理の面で主体性と子どもの安全を守ることの両立には、難しさがあると改めて感じました。安全を大切にすぎると子ども達が何もできない環境にしないために、保育者が事前に危険予測をして、子ども達ができる限りやりたいことを実現できる工夫をすることが必要だと学ぶことができました。また、子ども達にとって当たり前のことが確実にできる関りや環境を常に園で考えていくことがどれだけ重要かを改めて学ぶことができました。

第2講座「子どもと共に育つ保育」

…第2講座では、長野県私立幼稚園・認定こども園協会副理事長、西片紀美子先生に講師をお務めいただきました。西片先生が勤務される認定こども園松本光明幼稚園での実践をもとに、子どもと職員が学びのチームとなって、共に成長していける保育についてお話いただきました。また、子ども達が遊んでいる写真から、子どものその時の気持ちを考えるなど、実際の保育現場でみられる光景をもとに、子ども主体の保育や幼児期の終わりまでにつけたい10の姿などについてお話いただきました。



西片先生のお話から様々な事を学ぶことができました。(以下学んだこと)→遊びを通して総合的な指導を行い、一体的に育むことが重要である。乳幼児期は根っこを育てる大切な時期、「10の姿」は小学校との連携に大切。好きな遊びをしていることが、小中になって生きることがある。職員と子どもの話をする。この話をするのが職員のチームワークにつながる。この時なるべく子どもの良かった事を話したい。試行錯誤できる時間と場、思いを伝えたり受け入れたりする体験を大切にしたい。また活動する前には実際に保育者が経験することが大切である。

第3講座「先輩の話」



…2年目先輩教諭として、松本短大幼稚園の中村そら先生、中堅教諭として、認定こども園伊那緑ヶ丘幼稚園の矢野春輝先生から、日々の保育でのエピソードや感じている事、考えている事についてお話いただきました。また、中村先生からは、「プライベート

も大切にす。」矢野先生からは、「同期を大切にす。」という、生き方に関わる大切なアドバイスをいただきました。

・お二人ともそれぞれ子ども達との関わりの中で悩んだり迷ったりしながら、今に繋がっているのだと思いました。中村先生のお話からは、自分がこれから2歳児クラスを担当するため、子どもに話をする時にどんな話し方をしたら良いかを学びました。また自分の困っている事を他の先生ならどんなふうに行っているか観察するという、保育の仕方への学び方を知ることができました。矢野先生のお話からは、子どもに目がいきがちの保育ですが、保護者の理解があるから保育ができていことを忘れずに子どもも保護者も大事にして関わっていかねばいけなことに気付くことができました。

*一部文章を変更しています。

第4講座「子ども理解と語れる保育」

…講座4に先立ち、アイスブレイクタイムを行いました。長野県私立幼稚園・認定こども園協会研修副委員長の中島公子先生と同副理事長の西片紀美子先生に講師をお務めいただきました。3匹のこぶたの手遊びや3匹のこぶたの顔ハメ紙芝居を楽しく勉強させていただきました。その後、ECEQコーディネーターの倉科正豊先生に講師をお務めいただき、講座4を行いました。講座4では、「主体的な遊びで育つ子ども」のビデオを視聴し「新入生の頃」「登ってやる」「ケンカもいろいろ」の3つのエピソードについて、感じた事や保育者として自分ならどんな関わり方をするかなどについて意見交換しました。



・グループメンバーで自分の意見を共有した時、同じ動画を観ていても考えたこと、感じたことが全く違うこともあった。自分と違った意見を自分の中に取り入れていきたいと思った。様々な視点から子どもの状況を考えるようにしていくことが大事だと感じた。

・同じビデオをみんなで観ても私の気づかなかった視点、あるいは同じ意味でも少し違った見方で考えていて勉強になりました。保護者目線、子ども目線、環境など、様々な良い面と考え方があり、広い視野で保育をしていくことが大切と感じました。先生によって考え方は違うけど、伝えたい事の根本が似ていると思うので、子どもを主体にし、子どもを尊重する保育となるように工夫しながら関わっていきたいと思います。

・ビデオを視聴して班の先生の話聞いたことで、同じ視点で観ていても、感じ方や考え方が違ったり、一方で同じこともあったり、やはり子ども達の姿を先生同士で話し合う機会は貴重だと感じました。

・子どものよくある姿だけれど、どう対応したら良いか迷ってしまう場面が沢山ありました。子どもの気持ちや、子どもに対して自分はどうかばかり考えていましたが、環境構成や安全管理などについても考えていかなければいけないと思いました。

*一部文章を変更しています。